

クレーンで引き揚げられる廃船Ⅱ志摩市阿児町神明の神明漁港で



サミット向け 廃船撤去開始

県賢島周辺

【志摩】五月の主要国首脳会議（伊勢志摩サミット）に向け、県は二十五日、サミット開催地志摩市の賢島周辺に所有者不明のまま放置された、十隻の廃船の撤去に乗り出した。

撤去されたのはいずれも全長約五メートルの小型漁船。県は七月ごろから、サミット主会場と想定される志摩観光ホテルから見える範囲を対象に、景観や警備への支障が出かねないとして、放置船の撤去を決めた。

この日、県から委託を受けた建設業者石吉組Ⅱ志摩

市阿児町Ⅱの潜水士が沈んだ小型船に浮きを付けた後、船でえい航し、大型のクレーンで引き揚げた。廃船は十年以上放置されていたとみられ、船底に貝や藻が無数に付着しているのが確認された。廃船は、後日市内の廃棄物処理業者が処分するという。

県土整備部流域管理課の中西健司課長補佐（左）は「今回の作業はサミットの円滑な開催につながる。賢島周辺の船の所有者に適切な管理を呼び掛けたい」と話していた。

また、英虞湾周辺には、沈んだり、陸に乗り上げたりした放置船が数百隻あるとみられ、県は「所有者の分かっているものは自主的に撤去してほしい」と呼び掛けている。